渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）主催

第 21 回 SGRA カフェ

日本社会における二重国籍の実態

複数国籍保持者に対するスティグマ付与と当事者らの実践

2024 年 2 月 17 日（土）14：00～16：30

渥美財団（先着 20 名）およびオンライン（Zoom Meeting による）のハイブリット開催

参加無料

参加には事前登録が必要です。

（最後のページ「参加にあたってのお知らせ」をご参照ください）

【趣　　旨】

政治家やスポーツ選手等の「二重国籍問題」が炎上しやすい日本社会。日本国籍だけを保有する人々だけが「国民」なのだろうか。「外国人」と「国民」の境界線に居ながら日本社会で生きている多くの人たちは、どのような葛藤を抱え「二重国籍」と向き合っているのか。今回の SGRA カフェでは、このような問いをみんなで考えていきたい。

日本の国籍法は、国籍唯一の原則を取り入れているが、それは複数国籍保持の禁止又は違法性を意味するのだろうか。国籍法をめぐる様々な誤解を解いた上で、国籍唯一の原則が導入された背景を考察する。また、国際的動向に逆らって、日本では複数国籍容認への動きが全く見られないだけではなく、むしろ過去 15 年間、行政による複数国籍防止対策が以前より徹底されているようにさえ窺える。この動きの背景は何か。

最後に、複数国籍保持者の当事者らはどのような問題に直面し、どのような実践を繰り広げているのか。国際結婚によって生まれた人たち、帰化を経て日本国籍を取得した人たち、外国籍を取得した海外居住中の元日本国籍保持者の事例から、国籍選択制度や国籍喪失／はく奪条項等をめぐる各個人の実践と、近年の動きを検討していく。

【プログラム】

14：00～　イントロダクション

「多くの誤解を生んでいる日本の国籍法」

コーベル・アメリ（獨協大学特任講師）

日本政府は二重国籍の防止・解消に本当に積極的と言えるのか。その議論の前提として二重国籍が発生する主なケースを紹介しながら、その解消を目指す諸制度と限界を解説する。

14：10～　基調講演

「日本社会における複数国籍の実態―放置主義から摘発強化への政策転換」

武田 里子（大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター客員研究員）

国連加盟国中、複数国籍非寛容国は 23%（2020 年）にとどまり、日本はこのグループに区分されている。一方で日本における複数国籍者はすでに 100 万人を超えた。日本政府は 2000 年代に入り、なぜ、重国籍放置主義から摘発強化に政策転換したのか。本報告では、はじめに国籍法の変遷を整理し、次に調査から得られた当事者が抱える国籍問題と、国籍法 11 条 1 項* 違憲訴訟における被告（国）の主張、”国籍唯一の原則と重国籍削減の合理性”を重ね合わせることで、実態と国籍法制の矛盾を浮かび上がらせる。結論として、国籍問題も「失われた 30 年」の要因のひとつになっていることを示し、後半の議論につなぎたい。

*「日本国民は、自己の志望によって外国の国籍を取得したときは、日本の国籍を失う」

14：45～　話題提供

「日本における国籍と社会福祉及びソーシャルワーク」

ヴィラーグ・ヴィクトル（日本社会事業大学准教授）

国籍は様々な社会サービスの受給資格を通して日々の生活に影響を及ぼしている。前半は日本の公的な福祉制度と国籍の関係について整理する。後半はソーシャルワーク専門職の視点から国籍唯一の原則や複数国籍防止対策について考察し、問題提起する。

「国際－国家、そして家族史における国籍」

金 崇培（国立釜慶大学助教授）

依然として国際関係や国家が持つ権力の構造は「個人」に影響を及ぼしている。本発表は発表者の家族史やパーソナル・ヒストリーによって国籍問題の一側面を紹介しようとする試みである。

「日本と中国の間で起きている国籍問題」（オンライン）

高 偉俊（北九州市立大学国際環境工学部教授）

グローバルな移動に便利な日本のパスポートか、家族が同じ国籍（中国籍）であるというアイデンティティか。日本に帰化する中国人も多い中、その狭間で考えた日本と中国の国籍問題について自身を含む様々な事例を紹介する。

15：25～　　＜休　　憩　5 分＞

15：30～　**グループディスカッション**　…　下記の中から当日おひとつお選びいただきます

[ディスカッションテーマ（予定）]

① 二重国籍保有者としてのジレンマ

② 国籍とアイデンティティ（家族や母国との関係）

③ 人権の観点から二重国籍問題を考える（福祉・教育のあり方）

35 分

16：05～　**ディスカッション結果の共有**

司会/モデレーター：　コーベル・アメリ

16：25～　**閉会挨拶**

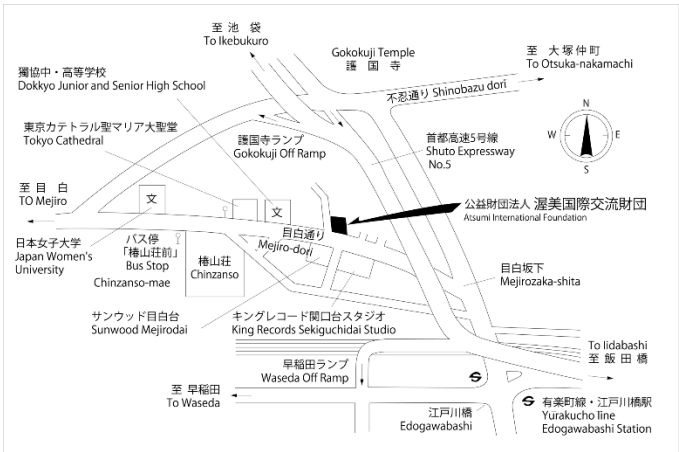
16：30　**閉会**

参加にあたってのお知らせ

参加には事前登録が必要です。
QR コードまたは URL からお申込みください。
事前登録 URL：https://qr.paps.jp/tHtBE

お問い合わせ
SGRA 事務局：sgra@aisf.or.jp

■ 渥美財団ホール
〒112-0014 東京都文京区関口 3-5-8
Tel：03-3943-761
地図：https://www.aisf.or.jp/jp/map.php



■ グループディスカッションについて
カフェ当日にグループディスカッションテーマをご案内し、ご参加になりたりテーマをお選びいただきます。

■ 技術トラブルが起きた場合には Zoom のチャット機能でご連絡ください。
■ 当日 Zoom 終了後にアンケートが表示されます。 今後の運営のため、ご協力をお願い申し上げます。

武田 里子【たけだ・さとこ】

新潟県生まれ。国際大学職員を経て、2009 年日本大学大学院総合社会情報研究科博士後期課程修了。博士（総合社会文化）。2012 年より大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター客員研究員。明星大学・東洋大学等で非常勤講師を務めるかたわら、2017 年に複数国籍学習会を立ち上げ、国籍法制が現実と乖離していることを当事者の実態から問題提起する活動に取り組んでいる。主な著書に、『ムラの国際結婚再考』（単著、めこん、2012 年）、『変容する国際移住のリアリティ』（分担著、ハーベスト社、2017 年）、『地方発 外国人住民との地域づくり』（分担著、晃洋書房、2019 年）、『複数国籍―日本の社会・制度的課題と世界の動向』（分担著、明石書店、2022 年）等々。

コーベル・アメリ

獨協大学フランス語学科特任講師。パリ政治学院政治学研究科博士課程修了（政治学博士）。博士論文「日本の国際結婚の諸規制――ビザ専門の行政書士の役割を中心に」（仏語のみ）。2022 年度フランス日本研究学会博士論文賞を受賞。専門は政策過程論、ジェンダー研究、法社会学。2018 年度渥美奨学生。

ヴィラーグ・ヴィクトル

東京大学卒業、日本社会事業大学院修了（社会福祉学博士）。現在、IFSW-AP 財務担当、日本ソーシャルワーク学会理事、日本ソーシャルワーカー協会理事、日本社会福祉学会国際学術交流促進委員、日本ソーシャルワーカー連盟国際委員、日本社会福祉教育学会理事。主な著書に、『多様性時代のソーシャルワーク』（単著、2018 年、中央法規）、『介護・福祉の現場でともに学び、働くための外国人スタッフの理解』（単著、2021 年、中央法規）等々。2013 年度渥美奨学生。

金 崇培【キム・スンベ】

国立釜慶大学日語日文学部日本学専攻准教授。関西学院大学法学部法律学科卒業、延世大学政治学科修士課程修了、同博士課程修了（政治学博士）。専門は東アジア国際政治、日韓関係。著書に『歴史認識から見た戦後日韓関係』、『日韓会談研究のフロンティア』（いずれも共著）など。2011 年度渥美奨学生。

高 偉俊【ガオ・ウェイジュン】

中国出身の環境学、建築学、都市工学者で、1990 年に来日しすでに 33 年間日本での生活を築いている。現在は北九州市立大学国際環境工学部建築デザイン学科教授を務めており、2 人の子供たちの父親でもある。1995 年度渥美奨学生。